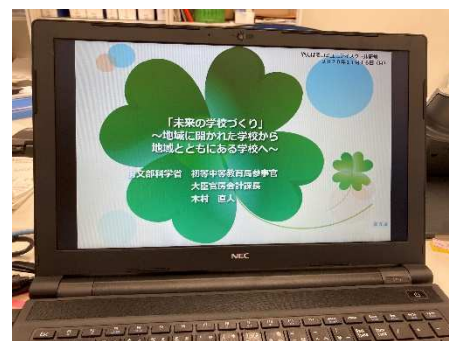


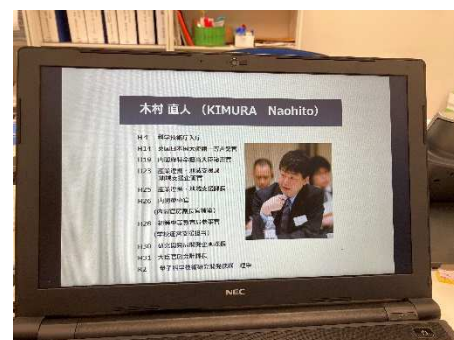
コミュニティ・スクール講演会報告書

日 時	2020年11月16日(水) 15:15～17:00
研 修 名	「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)講演会」
研修の目的	コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)講演会を実施し、学校現場から見た制度の仕組みや有効性、先進事例を学び、コミュニティ・スクール推進の機運を醸成する。
テ ー マ	「未来の学校づくり」 ～地域に開かれた学校から地域とともにある学校へ～
講 師 名	木村直人 先生 (前文部科学省 初等中等局参事官/大臣官房会計課長)
会場・場所	Zoom によるオンライン研修
研修内容	<p>1.学校は何のため、誰のためにあるの?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達が生きる未来→グローバル化、情報化等により変化が激しく予測困難な未来 ・我が国の学校現場を取り巻く課題は複雑化・困難化している。 <p>2.まちづくりとともにある学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ目的のために対等の立場で協力して共に働くこと ・学校と地域に「貸し借り」の関係はありますか? ・学校評価も基本は自己評価→評価する、されるの関係でなく関係でなく(自分たちの主体的な動きに目を向ける。) <p>3.地域よし、学校よし、子供よしで未来よし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人は人を浴びて人になる。 ・社会の変化に対応するために「学校教育」も変わらなければならない。 ・開かれた教育課程 ・地域とともにある学校への転換
成果／活用策	<p>○地域と学校が貸し借りの関係にならないように、未来への目標をしっかりと共有することが大切である。また、イベントだけに参加せず計画の段階から参加することも重要である。</p> <p>○CS導入の業務多忙化への懸念に対し、課題を共有し、双方向で話し合い、解決策を探ることにより結果的に業務改善につながる事がわかった。</p> <p>○CS評価は「当事者意識」を持つことが重要で、基本は「自己評価」をすることが重要であること。学校評価をするにあたり「自己評価」をすることが重要である。例えば、問いの文言でも、学校内(職員同士)では同僚性がありますか?ではなく、あなたは同僚性を意識していますか?にするなど、今後はメタ認知を意識していきたいと思った。</p> <p>○社会情勢からCSの必要性、これからの教育課程の理念など具体的に学ぶことができた。学校評価の事例、協議のポイントが参考になった。</p> <p>○思いを共有する場所をつくり、つながっていくことが大切であると感じた。</p> <p>○学校と地域の目指すべきパートナーとしての連携、協働関係の姿を再確認することができた。</p> <p>○子ども達に育成したい資源・能力を互いに共有し、学校の教育課程の中でどのように地域の</p>



「ひと・もの」を活用していくか理解を深めたい。

- 「思い」を共有できるようにすることを改めて認識することができました。
- 学校評価の取り方について、主語が「学校は」ではなく、質問を答える当事者になることで、学校任せではなく自分事として考えられ、パートナーとして協働が進みそうである。
- 子ども達に大人として何を伝えたいのか考える機会になった。学校の役割、地域、家庭の役割を確認、目標の共有の場は必要だと感じた。
- なぜ、コミュニティー・スクールなのか。社会の変化に対応するために学校教育もどのように変わらないといけないのかを考える機会になりました。
- すぐに成果の確認はできていないです。活用については、地域に知的財産や人材活用でできることがあると思います。
- CSがなぜ必要なのか、木村先生のご説明を聞いてよく分かりました。これからの社会、子ども達がグローバル社会で生きるために地域と学校が三位一体にならないと乗り越えていけないと思いました。
- 目標・課題の共有が第1に大事だということ。情報の共有をする、教頭として今からでもできることがある。
- 地域と学校が子ども達のために同じ目的や目標を持つことが大切である。
- 世の中が大きく変化していくこと。それを変えるためには、一步踏み出すこと。
- 「考えるだけでは物事は変わらない。動かなければ!!」、支援の仕方も頭で考えるよりも動いてその子に合う支援の仕方を探せるような気がしてきました。
- 学校、地域との連携はとても重要なことだと思います。
- これからの子ども達の未来のために、コミュニティー・スクールの大切さが色々な面から見ることで大変良かったです。今すぐに行えることを考えた時、今年度は、少しずつコミュニティー・スクールのメンバーの組織や方法ができつつありますが、次年度の教育課程の計画の段階でもコミュニティー・スクールとの関わりが必要なのか悩むところです。
- これからの学校は、地域と「思い」を共有し、未来への目標に向かって、協働して取り組んでいかなければいけないということが分かった。
- 目標・課題を共有してから、方法・手段について協議をおこなう。子ども達がこれから先の未来を生きるために、様々な立場の人々との多くの経験を積ませることが大事である。
- 学校、家庭、地域が、共に生きる思いを共有する。子ども達が笑顔で過ごせるために、私達職員も笑顔で過ごせるよう未来の目標をもって、それに向かって進んでいくための方法を考えていきたい。
- コミュニティー・スクールがどういう経緯で導入されるのか等、必要性についてよく理解できた。
- 地域の方々にアンケートを取る際の問いかけは、大変参考になりました。当事者意識づくりですね。
- 互いに「当事者」となり、共通の目標に向かっていく事で、それぞれの活動に系統性、繋がりが見られ、子ども達の「自己信頼・変化・思考・好奇心・当事者意識・達成欲求



等」の育成、向上に繋がると思いました。まずは、「分かち合う・共有」する場面を設けること、そのためのコミュニティー・スクールという事を今日の研修で改めて考えさせられました。コミュニティー・スクールを先駆けて実施している名護市から学びながら、自分たちに合った地域連携の形、強化を図っていかれたらと思います。

○私達教師は、子ども達のため（未来のため）に当事者として創り上げていくということが大切であると分かりました。話の中で、教師（学校）、家庭、地域で「未来への目標」を考えることから始める必要があると思いました。まだまだぼんやりしているところもありますが、子ども達の笑顔のために小さな一歩を踏み出せると良いなと思っています。

○今後、学校だけでは社会の一員となる子ども達を育てることができない。CSに取り組み、大人がつながり子ども達を育てる。（社会で子どもを育てる、大切です）

○コミュニティー・スクールというキーワードはよく耳にしていたが、具体的にどういった意図があって、どのように取り組んだら良いか、ヒントが多くあり今後の学校教育の見通しができた。

○各々の人々の関わり方が理解できた。

○教師と地域の方々に「何を子どもに身につけさせるか」と考え、計画を立て実践していくということか。

○地域に開かれた学校→地域とともにある学校という意識で、地域と学校が子ども達のために同じ目標に向かっていく必要があると知った。計画段階から地域も一緒に参加する必要性。

○大変分かりやすい内容であり、CSのみでなく、学校の役割を再認識することができた。今後の取り組みに役立てたいと思う。

○地域・学校との連携の大切さについて。これまでのやり方を変えて、一歩踏み出す姿勢について。

○私達が直面している課題からコミュニティー・スクールの必要性を理解することができました。しかし、具体的に「誰が」、「何から」と考えると初めの一歩がイメージし難いです。

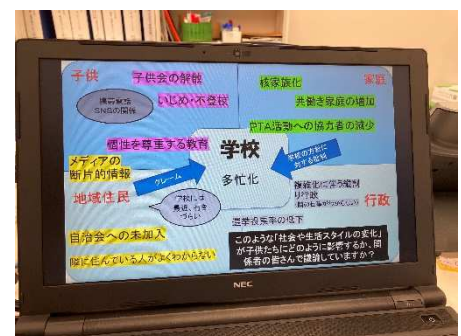
○学級や学校でSDGSを取り組んでいくことで、何か見えてくるような気がしました。

○時代が急激に変化するのに学校のあり方を変えないことはマズいことだと思いました。

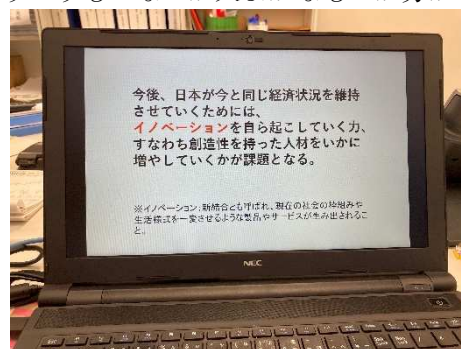
○30年後を考える。先を見つめた時、日本は、沖縄は、名護市は、を人任せではなく、自分事として考えなくてはならない。大好きな子ども達の未来のためにあるべきCSの形を実用化していかななくてはならない。引き続き委員会で分かりやすく推進していきたい。

○CS自体の理解がとても深まりました。学校だけでは、対応しきれない問題を地域と連携して解決していくことを分かりやすく学ぶことができました。

○多様性、専門性を活かすためには役割分担が大切である。それぞれの役割についての理解、共有をしていく。「目標が大事」手段を協議するのは目標を共有した後！



- 組織づくりについて理解する第一歩になったと思います。ありがとうございました。
- 様々な大人に出会える機会の設定、計画段階から地域も参画させる、未来の地域を良くしていこうとする気持ちを育てる。
- 自分の意識を変える。子どもの未来を思い描き、子どもの成長のために家庭・地域・学校で協働する。
- 子ども達に様々な立場の人々との多様な経験を積ませること。
- 「ビジョンを持つ」あまり意識したことがなかったのですが、これが、学校よし、子どもよし、地域よしにつながるのだということを改めて感じました。思いの共有を大切にしていきたいです。
- 地域で教育計画を確認し、目的と目標を統一する。CSで残業が減り、仕事がワクワクする。
- 地域とのつながりをどのようにつくっていくか、これまで地域教育懇談会で話を伺うと子ども達への思いを持っているのに、その場だけになってしまい、つながりを感じることが出来ませんでした。当事者意識をもち、ビジョンを共有することで強くつながっていくのではと感じました。
- 子ども達が生きる未来を見据えた上での学校や教育が果たす役割の共有化を図ることができた。
- コミュニティー・スクールの仕組みや、なぜ必要なのかについて、改めて再確認することができました。本校の中学校区でも地域の方々と膝を突き合わせて、目指す児童生徒像や共通目標・取組内容等について話し合っている段階です。
- 子ども達が未来を生きるためにゼロから1を生み出す創造力や未知の問題を解決する俯瞰力を付けていくためにもコミュニティー・スクールは取り入れると良いと解りました。
- 学校だけではなく地域の貴重な人材を活用し、様々な人との関わりを持つことでAIが発展していく時代の中で、人間にしかできない教育活動、AIには替えられない関係づくりに役立つと感じました。(AIが発展していく中で、これからますます必要になると感じました。)
- 地域よし、学校よし、子どもよし、未来よし、みんなで相談しながら合意形成をしていくこと。
- できることを確認しながら取り組む、活動していくこと。
- ”チーム学校”(教職員構造の転換)、学校現場を取りまく課題は、複雑化、困難化しているが、現在、専門的知見を有するスタッフが配置されているので、互いに共有しながら教員は子どもと向き合う時間を増やすことで、学校がチームとして力を発揮し、子どもも自分たちも笑顔になりより良い環境を見出せるのだと感じました。
- コミュニティー・スクールとはよく聞かすが、どういうものなのか大まかなものが分かった。地域人材を活用した授業を行うことなのかなと思った。
- 情報化社会が進む中、人との関わり、人間としてしかできないこと、これからの学校・地域・社会の役割や目指すものについて改めて考えることができた。
- CS導入の必要性や、今後、学校と地域の目指すべき連携、協働活動のあるべき姿を具体



的にイメージすることができた。まずは目指す子ども像の共有、目標の共有から取り組んでいきたい。

- 地域教育資源の活用（今あるものから整理・活用）。懇話会メンバーの選定。地域への啓発活動（教職員との共通理解）。いかにして負担感の解消につなげるか。
- CSが未来を生き抜く子ども達の成長には、絶対的に必要だと感じました。個人的には、学校評価の視点がとても参考になりました。12月の学校評価に活かしていきたいです。
- 名護市は他の市町村に比べ、恵まれた状況にあることから将来を生きる子ども達にどう生かしていくことができるか？ということで、私達が互いに関心を持って協働していくことがまずは大切であると思った。
- 子ども達を取り巻く様々な環境が同じ方向に向いていないと手立てや支援が難しく、不満なども出てくるだろうと感じました。学校、家庭、地域で共有し、子ども達の将来を見据える。
- ひとが住み続ける町づくりとは、学校、家庭、地域が子どもに関心を持って関わることのできる環境づくりが重要である。（人を中心とした環境づくり）
- 「未来の目標」の思いやビジョンを共有するということは、コミュニティー・スクールだけでなく、日々の教育活動や学級経営等、活用できる場は沢山ある。そのことについての対話から始めていきたい。
- 子ども達と町の宝について話し合っていきたいと思います。そして子どもの顔が見える町づくりの一步を考えていきたいと思います。
- 成果として、数年後の社会や子ども達が抱える課題はさらに複雑化していく事を念頭に置いて、あらゆる指導を行う必要があると自覚することができました。
- コミュニティー・スクールの必要性や今後の地域社会、学校の役割等が明確になり頭の中が整理されたが、現状の現場ではフリーWi-fi等の環境やタブレット等が整えられていないので、早急に環境を整えてほしいと思った。
- 教育課程を編成する際に地域の中で活用できる場所や人材を活用したりして計画することができるのでは・・・。
- 「未来への目標」を子ども達と共有した上で、目の前の課題を子ども達と一緒にステップアップしていきたい。
- 当事者として考えることが子ども達の未来につながるので、学校の事だけではなく、どんなことも「当事者」として考えていきたい。
- 自分たちの住む町を知る（地域の歴史など）総合的な学習の時間。地域の方の活用（1年おもちゃ作り、3年習字、4年川探検など）。
- 子ども達が笑顔で過ごせる魅力あるまちづくりのため、魅力ある学校づくりのため自分ができることを意識して日々の教育活動をおこなっていきたくて思いました。
- コミュニティー・スクールはゴールではなく、手段であって、子どものために児童・保護者・地域と共に一緒に現状の共有、未来（目標）を共有していきたい。保護者と話していくとき事後報告に終わらず、児童の思い、保護者の思い、担任の思いなど、教員主導にならず対話していきたいなと思いました。
- いろんな人と関わらせながら、世界とつながる互いを認めあって生き生きと生活できるように、いろいろな経験をさせていく。

感想／要望

○今回の研修でとても印象に残ったことは、「開かれた学校」についてである。これまで学校からいろいろな情報を発信していれば良いと思っていたが、「学校内に閉じずに目

指すところを社会と共有・連携しながら実現させる」ことが大切だと聞いて、これまでの考えを改めなければいけないと感じた。これから保護者や地域と関わる上で「目標を共有」することから始めていきたいと思った。

- 基礎的な学力は、主に学校が中心となって身につけさせていくが、応用的な問い、例えば「(答えのない課題)に最善解を解くことができる能力」などは、多様な人々と協働して育んでいくことが重要であることが分かった。CSの理念そのもので今後も理解を深めていきたい。
- 地域連携＝「貸し切り」になっている…は深く考えさせられました。この「貸し切り」の概念を払拭するには、地域、保護者と本音で語り合い、学び合い、互惠関係を築くことでしか本当の意味での信頼を得られないと感じた。
- 「無意識の前提にあるブレーキを外す」という言葉が印象に残った。どのように最初の一步を踏み出すか、ブレーキを外せるようにしていきたい。
- 当事者意識をもって取り組んでいきたい。変化する時代に学校だけで抱え込まず、柔軟にチームで対応していけるようにしたい。「こどもたちのために」の原点に戻り、校区のCSを進めていきたい。
- これからの学校は、子ども達に様々な立場の人々との多様な経験をつませること。保護者、地域住民だけでなく、企業、組織との協働による教育活動を展開することが大切。そのためには、目標やビジョンを共有すること。まずは形式的なつながりではなく一歩進んだつながりをもつことが必要だと感じた。
- 「地域よし」、「子どもよし」、「学校よし」で「未来よし」がとても印象に残りました。
- 「社会に開かれた教育課程」の実現のために、学校ができること、地域にできること、それらをつなぐコーディネーターとしての役割も重要だと感じました。教職員としてできることを考えていきたい。
- 最後の「すべては地域とともにある学校から始まる」という言葉に、今後、どのように人づくりの「思い」を共有し広げていくかが課題です。
- これからの時代に求められるのは「ゼロ→1を生み出す創造力」と「未知の問題を解決する俯瞰力」
- 地域と学校が協力するためには、同じ目標が必要だと分かった。子ども達の将来のためには、様々な人との関わりや経験が必要だと分かった。答えの無い課題に最善の答えを考える力を身に付ける必要があることが分かった。
- 学校と地域がパートナーとして連携、協働関係であるために、目標、ビジョンを共有することが大切。人は人を浴びて人になる。未来の教育を見据えた教育を心にとめて、日々、子ども達と笑顔で接したい。
- コミュニティー・スクールは地域のつながりをつくることから始まるとすると、その地域に詳しい方(出身者)がいた方がやりやすい。本校はそうであると思う。
- 中学校区の懇話会に参加しましたが、学校規模や課題がそれぞれ違って「目指したい子ども像」を決めなければならないが、なかなか難しいと感じました。
- 「学校評価」を児童、保護者、学校職員に答えてもらっているが、この質問項目を羽地中学校区4校で統一し、作り直さなければならないと思った。目標や課題の協議を経て、目標を地域とも「共有」した上での作り直しだと思った。
- 社会に開かれた教育課程、地域が参画する地域とともにある学校。
- コミュニティー・スクールとは「学校」、「家庭」、「地域」が育てたい子ども像。目指

すべき教育のビジョンを共有し、目標の実現に向けて共に協働していく仕組みなんだと理解することができました。

- 「思いを持ってやっていこう・それを伝えていこう」、「地域・子ども・学校よし」、情報を共有し実践していくことが大切だと思った。
- 「教育がすべてSDGsの基礎」、CSがSDGsにつながっているんだなと認識しました。
- 全ての子ども達の笑顔のためにも私達教師も笑顔で前向きにやっていかななくてはと痛感した。
- 「地域よし」、「子どもよし」、「学校よし」の思いを子どもを取り巻くすべての人達で共有していきたいです。そのために私達が今出来る事は何か、考えていきたいです。
- 私達の周りで社会がどんどん変化し、進歩していっているのだから、学校もこれまでのように学校という枠の中での活動ではなく様々な立場にいる人々と手を取り合って、協働し合って変わっていかないといけないことを強く感じた。
- CS, SDGs 全ての基礎となるのが教育である。地域と協働しながら教育活動を展開するために、教育課程をしっかりと編成していく必要があると思いました。
- 「コミュニティー・スクール」、「開かれた学校づくり」と聞くと、真っ先に浮かぶのは学校通信やインターネットを活用して「学校の取り組みを明らかにすること」であったが、そうではなく地域と同じ目標に向かって共有・協働していくことが重要なのだということが学べた。
- コミュニティー・スクールは学校にとって大きな力になるのではないかと感じた。そのためには地域と学校が目指すものをしっかり共有し、目標に向かうことが大切だと思った。
- 大学入試問題の例は、実に面白い問題でした。中学生にも問うてみたい。大人が考える以上の解答が出てくることが予想されワクワクします。解決策が無いように見える課題も視点を変えれば解決できたりするかもしれない。未来の子ども（大人）達に何を学ばせるか考えさせる研修でした。
- 評価する、されるの関係ではなく「自己評価」。無関心、他人ごとから「当事者意識」。取り組みを継続することが目的ではなく、思いをもって大胆に変えればいい！積み重ねが変化につながる等、数々の刺激を受ける言葉を与えていただき、本村が目指す子ども像、教育について改めて「当事者意識」を持って考えさせられました。
- 自分たちだけでは子ども達を育てることができない。地域の方々とつながり、共に子ども達を育てる事。お互いに共通の目標を持ち、様々なアプローチで子ども達を育てることは重要だと感じた。
- 予測困難な未来を生き抜くためにコミュニティー・スクールの重要性、人が変わっても連携の形が保てるサイクルをつくる重要性、学校が地域連携から業務軽減することでやるべき仕事をしっかりやることの大切さを理解した。
- 10年、20年先の未来をみて目標を立てる、共有することの大切さを学んだ。大切な子ども達と未来を考え、多様化する社会にどう進むのか考えていきたい。
- 地域の方々、学校の先生方は忙しいということはよく理解している。何か役に立ちたいと感じていることはありがたいが、何をやってもらうかは、教師側もよくわからない。今のところあくまでも協力であり、学校の授業・行事に参加するため保護者が仕事を休むという意識、制度が必要。
- 「子ども達のために何が出来るか」という視点がとても良かった。「地域よし、子ども

よし、学校よし」、それが「未来よし」につながるものが、木村先生の講話でとても素晴らしいと思う。

- 世の中の多様化に合わせて、地域と学校が共通の目標に向かっていく大切さ。各コミュニティ・スクールにおける協議会のあり方。
- 幸せになるための4つの因子（ワクワクして仕事している方が幸福度、生産性も高い）。
- 4つ葉のクローバー、SDGsを達成することのできる子ども達を育てよう。印象にのこったこと（言葉）がたくさんありました。
- 「貸し借り」といった利害関係を生み出すような意識から「当事者」意識を持たす工夫が必要だと感じました。
- 協働＝同じ目的のために（目標に向けて）対等の立場で協力して共に働くこと。（この考え方を忘れたくない。）
- 「子どもの笑顔のために学校がある」ことを強く感じることができました。私達教員も楽しく教えていきたいです。本日は、貴重なお話をありがとうございました。
- 業務改善、働き方改革を進めていくことで、本来の自分の仕事に集中して取り組める。仕事への取り組み方を変えることで専門性を高めていくことができる。CSはそのための手段。
- コミュニティ・スクールは地域と学校が同じ目標に向かって進むことだと思っていたが、子ども達との共有も大切だということを知った。
- これからさらに複雑化していく世の中で子ども達は生きていけないといけなと改めて思いました。だからこそ、教師一人の力や教員という一つの職業だけで、教育を行ってはいけないと感じた。
- 社会の急激な変化の中を生き抜いていく子ども達につけていってあげないといけな力も変化していると心得て、子ども達の教育に携わっていかねばならないと感じた。
- 未来の子ども達のために何ができるか考えるというところがとても印象に残り、頑張りたいと思った。
- 「人は人を浴びて人になる」という言葉が印象的でした。前まで、地域との連携にあまり気は進みませんでしたが「やってみよう」と前のめりになることができました。
- 「学校」は主ではなく「自分たちの主体的な動き」に向けるという意味がよく理解できました。
- 地域・学校の連携→貸し借りになっている（必要な事だけをやれば良いと思う）。負担になっている場面が多々見られる、本当に必要なことを無理せずやるのが良いと思う。
- それぞれが「当事者意識」を持つことが重要であり、自分たちの「主体的な動き」に目を向けていくことが大切ということが印象に残りました。
- 専門職の方が学校に入り「チーム学校」として子どもを支えていくという考え方に賛同できると思いました。多忙化する学校の中で我々教員にとって大切なことです。
- 未来を生きる子ども達に何が必要かを考えた時、それは「人である」ということ、「人は人を浴びて人になる」という言葉が強く心に残りました。
- 「コミュニティ・スクール」により児童・職員のやる気、自己肯定感の高まりにつながり、学力向上も考えられる。プラス思考で取り組んでいけたらと感じた。
- これからの学校は「子ども達に様々な立場の人々との多様な経験を積ませること」、

「保護者・地域住民だけでなく、企業・組織との協働による教育活動を展開すること」が求められています。その共通の土俵になるのが、コミュニティー・スクールだと思います。本校の子ども達が自己有用感をもち、主体的に判断し、協働し、創造し、発見、解決につなげていける大人に成長できるよう支援していきたいと思えます。

- コミュニティー・スクールで地域との協働がとても大事であること、思いを共有することは大切だと良く分かりました。
- 地域の方々と共に子ども達を育てていくことが大事。そのためにも子ども達がどんな力を身につけていく必要があるのか、じっくり考えることが求められている。地域と共に子ども達を育てていくことが近年、大事だということに気づかされました。
- 分かち合う、育て合う、積み重ねる、つなぐ、子ども達と一緒に作り上げていきたい。
- 学校便り、HPによる情報公開等が実施後の報告になっており、評価「される」になっていないか？という言葉が印象に残りました。評価する、されるの関係ではなく「当事者意識」を持つことをみんなで意識して協働することが大切だと思いました。
- 具体的な事例があまりなくてよくわからなかった。校長の方針、取り組み方を受けて私達教員は動くのではないかと思う。カタカナの言葉が多すぎて難しかった。話が長く抽象的な部分が多い。
- 学校や地域それぞれがそれぞれに要望や協力を一歩的をお願いしていた（現在もしている）ように思うが、「目標や目的を共有する」、「子どものために協働する」という意識を持つことが大切だと感じた。
- 家庭の実態（核家族の増）等によって難しい面もあるかと思うが、子ども達のお手本となれる大人・地域社会としてつながっていったらと思った。
- 貸し借りの関係ではなく、当事者意識を持って共通の目標に向かって取り組みを進めるWin/Winの関係！！
- 少子高齢化による社会の激しい変化（人口減少）、本市の恵まれた状況をどう生かすか！（世界が競争相手→協働相手）。子ども達に何を伝えていくか！（伝えたいか!）→ビジョンの共有。魅力あるまちづくり（家庭・学校・地域で）→創造、発見、解決へ。
- 魅力あるまちづくりについて、家庭、学校、地域での創造発見が今後の学校改革には必要だということを改めて強く感じました。
- コミュニティー・スクールは、変化の激しいこれからの社会を生きる子ども達のために行うものだと思っていた（イメージが強かった）が、私達教員の働き方改革の1つとなり、子ども達も地域も社会も私達も幸せになるための手段であると学んだ。いろんな関係機関と連携していきコミュニティー・スクールを実現していくことは、始めは大変そうだが、1人1人が未来への思いを持って協働していくことがとても重要になってくると感じた。
- 今回の研修会を終えて、まずは自分自身が前向きに夢や目標を抱えながら、楽しく過ごしていきたいなと感じることができました。
- 子どもにとって一番のいい環境とは、学校、家庭、地域の「人」であることを改めて確認できた。
- 本来の意義や目的に戻って考えることで、本質的な部分を考えることができました。お忙しい中ありがとうございました。

- 北部での勤務、生活はまだ浅いですが、地域を盛り上げるために、まずは多角的に実態を捉えることからしていきたいと思います。子ども達が楽しく過ごすために、まずは私が楽しんで生活していきます。
- 多様化する社会の中で、働き方や価値観が大きく変わる変換期になってきたというのが1番の感想である。人生100年時代を生き抜く子ども達に学校は、何を教え、伝えることができるのか教員は真剣に考えていかなければと思った。
- 私たち教師の役割は、単に学習指導だけでなく、子どもと子ども同士のつながり、社会とのつながり、自然とのつながり、ITとのつながりなど、多くのものとながれるよう支援することだと感じた。そのためには、私たち教師同士も互いにつながって支え、チームとして働く意識を持ちたいです。
- 学校、家庭、地域で思いを共有し、目標を設定し、みんなで子どもを育てていくことで幸せな子ども達をつくっていかねばいけないと思いました。そして、私自身が幸せであるために考え、行動できるといいのかなと思いました。「人は人を浴びて人になる」心に受け止めていきたいです。
- 幸せになるための4つの因子、「やってみよう」、「なんとかなるさ」、「ありのままに」、「ありがとう」を意識しながら指導していきたい。
- 学力をつけることが大事なのは大前提として、子ども達には将来のためにも様々な経験をさせ、AIが代わりをすることができない部分の能力を身に付けさせたいと思った。(子どもの笑顔のためにも前のめりで取り組んでいきたい。
- 思いを共有することが大切である。1人で行うのではなく、みんなでより良い町づくりをしていきたい。
- 学校、家庭、地域で思いを共有。目標、ビジョンを共有、まさにその通りだと思いました。とても勉強になる研修となりました。ありがとうございました。
- 学校評価について、今まで違和感があったので、評価してもらうのではなく、自分達自身を自己評価することで、その意義を聞いてすっかり納得しました。
- スタートしてみないと見えないところがあるなと感じました。子どものために何ができるか地域の課題等、問題が山積みなので不安が大きい、でもやるしかない!
- 地域や社会と協働をしていくことで、子ども達の人生の視野が広がり、子ども達が主体的に様々な経験をしていくと考えることができました。
- 「学校と家庭、地域との連携」は以前(30年以上前)から言われてきたが、学校と地域が子ども達にどんな活動をさせるのかではなくて、CSとしての一面は、学校で子ども達に地域の課題(希望)を捉えさせ、自分達で何ができるか(何をしたいのか)を考えさせることがスタートのような気がする。地域の課題を解決するアイデアを見つけるために学校(子ども)が地域の物事・人を調べたり、活用したりしていくことなのか。(児童からみたら授業? 行事? まだまだよくわかりません。
- とても良い研修内容だったと思います。実際のCS先進地で見聞きする機会があれば幸いです。
- コミュニティー・スクール・・・うまくいっている例だけでなく、そこに至る苦勞等も聞ける内容があると良い。業務改善に至るまでにはかなりの苦勞(努力)があったのではないかと感じました。
- 具体的な取り組みについてもっと紹介してほしい。
- 今後もCSに関するご紹介をよろしくお願い致します。
- 地域学校協働活動による「子ども達の学びの充実」などのテーマがあればお願い致します。

ます。オンライン研修の際は、アンケートもオンラインで実施した方が解答も集計も効率的で良いかと思います。

- 研修での講師の話す時間は、事前に必ず提示した方が良い。見通しをもって研修を受けたい。(主催者として次回へ活かす。)
- CSの実施に伴い、先進地区から課題やデメリットなどについて知りたいと思いました。
- 毎月1回オンライン研修があっても良い。移動が無いので研修に後ろ向きの職員も納得しやすい。
- 学校現場で実践できるような研修を願います。
- 地域との連携について、どのような方法があるのか考えていきたい。
- 地域によっては、関われるものが異なったり、違ったりすると思うが、例えば市などという単位で関われるものが共有されるとつながりがもっと広い視野で持てると思う。市でもつながることができるネットワーク作りをして提供してほしい。
- CS先進地域(広島・山口)で取り組んでいる学校の実践例などをズーム等で紹介していただくような研修をお願いします。
- できれば、1つの例としてコミュニティー・スクールの実践事例が見られると更によかったと思います。
- 先進地域の学校運営協議会の話し合いの様子を配信できると参加してみたい。(熟議の進行で悩んでいます。)
- 「学びの質を高める授業改善の推進」についての研修や「キャリア教育の推進」、「幼児教育の推進」、「学校における働き方改革の推進」等の研修ができればありがたいです。
- リモートによる研修を受けるようになり、とてもメリットを感じる。リモート研修定例日(例:毎週火曜日の15:30~17:00)が周知され定着すると受講人数の増加にも繋がると思われます。
- CSに取り組んでいる実践事例、課題等が知りたい。
- 非常にまとまった話で、非常に分かりやすかったです。
- Zoomでの研修は時間が有効に活用できるので有難いです。
- コミュニティー・スクールの具体的な実践事例の紹介、先進事例についてお伺いしたいです。
- コミュニティー・スクールの事例を見てみたいと感じました。
- 地域・学校・協働活動の具体的事例を知りたい。
- AIが主流になると分かっているが、実際にインターネットやオンライン、Zoom等で授業や研修ができるスキルがないので、実践研修を増やしてほしい。
- Zoomを活用した研修であれば、研修会場へ行く時間も省けて研修の時間を多く使えると思うので、これからも活用していただきたい。
- チーム学校になる前に先生同士の交流、業務上の付き合いで終わっていて、みんな児童に対する思いはあるけれど方向性が違ったりし、さらに仕事に追われてたりして、先生同士が認められる、承認欲求が上がりそうな何か企画があったら・・・。

<アンケートの結果>

目標参加者数	100 人	参加者	164 人	参加率 164% 参加率=目標参加数÷参加数
アンケート回収数	92 件	回収率	56.1%	回収率=回収数÷参加者数 (%)

アンケート項目	評価 4		評価 3	
研修の時間について	適当であった	47 人(51.1%)	まあまあ適切であった	40 人(43.5%)
興味を引く研修内容か	非常に良かった	33 人(35.9%)	良かった	54 人(58.7%)
今後の教育活動に活か せそうですか	非常に活かそう	34 人(37.0%)	まあまあ活かそう	53 人(57.6%)

※評価 2、評価 1 は極少数であった。